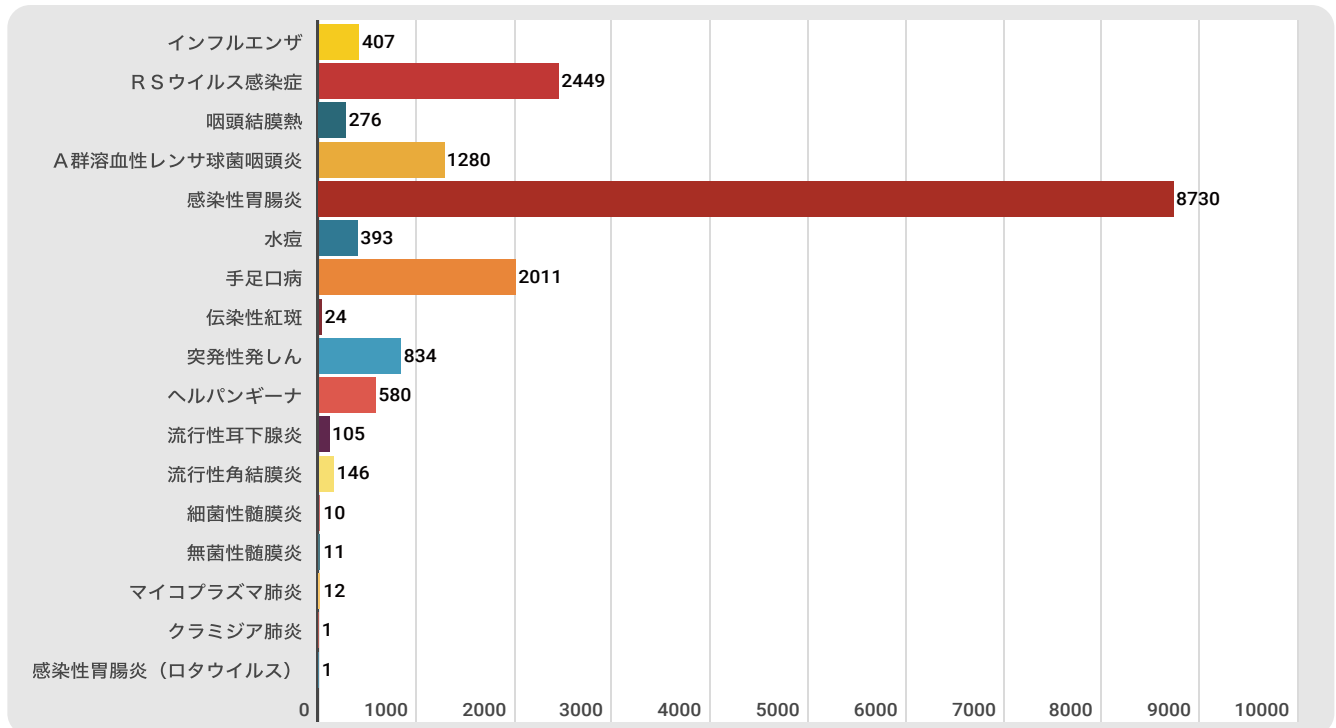


国立感染症研究所が発表する感染症発生動向調査週報「定点把握疾患(週報告)、累積報告数、定点当たり累積報告数、都道府県別」に基づいて、毎週の感染症報告動向をお届けする。

感染性胃腸炎、9,000例に迫る勢い



(国立感染症研究所のデータを基に編集部作成)

11月7～13日は定点把握疾患のうち感染性胃腸炎の報告数が最も多く、8,730例であった。続いてRSウイルス感染症が2,449例、手足口病が2,011例の順であった。感染性胃腸炎は、前週比1,066例増で前週(242例増)から増加幅が4倍以上に拡大し、第29週(7月18～24日、9,446例)以来の9,000例に迫る勢いだ。昨年(2021年)は第44週に8,416例、第45週に1万127例となり、以降冬季にかけて1万例以上の高水準が続いたため、今後の動向を注視したい。RSウイルス感染症は、前週比232例減と減少が続くものの、依然2,000例台の高水準にある。手足口病は減少が続いた。インフルエンザは407例と前週比137例増で前週(117例増)から2週連続で増加し、2020年第15週(4月6～12日、431例)以来の400例台となった。新型コロナウイルス感染症は4万2,424例/日で前週(3万7,555例/日)から約5,000例増、1週間平均も8万5,347例で前週(7万2,570例)から約1万3,000例増となり、いずれも増加幅の縮小傾向が見られるものの増加が続き、強い警戒が必要である。

※2021年同週の上位3位は、感染性胃腸炎1万127例、手足口病4,392例、A群溶血性連鎖球菌咽頭炎1,692例

●**感染性胃腸炎**：前週(7,664例)から1,066例増加した。報告数が多かったのは、5週連続で東京都1,098例、埼玉県794例、神奈川県686例の順であった。定点当たりの報告数(2.78)は福井県が6.09、大分県が5.61、埼玉県が5.03、宮崎県が4.83、島根県が4.74、群馬県が4.28、東京都が4.22、福岡県が4.15、富山県および徳島県が4.00と続いた。

●**RSウイルス感染症**：前週(2,681例)から232例減少した。報告数が多かったのは、埼玉県136例、宮城県135例、福島県127例の順であった。定点当たりの報告数(0.78)は、山形県が4.17、福島県が2.54、沖縄県が2.42、宮城県が2.33、山口県が2.02、山梨県が1.79、徳島県が1.74、高知県が1.67、新潟県が1.59、群馬県が1.52と続いた。

●**手足口病**：前週(2,368例)から357例減少した。報告数が多かったのは、大阪府214例、福岡県143例、兵庫県132例の順であった。定点当たりの報告数(0.64)は、愛媛県が2.73、石川県が1.76、島根県が1.48、京都府が1.41、奈良県が1.35、長崎県が1.32、熊本県が1.24、福岡県および宮崎県が1.19、鹿児島県が1.17、青森県が1.10と続いた。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)情報

厚生労働省が公表している「国内発生状況」によると、11月21日の新規陽性者数は4万2,424例であった。